

横浜市立不動丸小学校 学校だより

令和5年10月31日



たいじゅ もり  
大樹の森

11月号



<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/fudomaru/>



S (すこし) D (だけ) G (がんばろう) s

校長 山下 謙一郎

秋はさまざまな自然の美しさに出会う季節です。木々の紅葉が始まり、空気が澄んでいる影響で遠くにある丹沢山地もとてもきれいに見えます。今年は残暑が長く厳しかったこともあり、この過ごしやすい秋の季節が、残念ながら少し短そうです。それでも、素敵な「秋」を見つけながら、多くの学習や活動に楽しく取り組んでいきたいと願っています。

さて、「SDGs」という言葉が聞かれるようになって数年が経ちました。ご存じの方も多いと思いますが、あらためて紹介すると、SDGsとは、Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略で、簡単に言うと「世界中にある環境問題・差別・貧困・人権問題といった課題を、世界のみんなで2030年までに解決していこう」という、持続可能な社会の実現を目指す世界共通の計画・目標のことです。大きく17の目標が掲げられていて、学校でも様々な場面で折を見て、学習の中でふれていくことがあります。

さて、先日私が通勤していた朝のこと、本校の保護者の方が鶴ヶ峰駅付近でごみ拾いをしている姿を見かけました。少し話しかけてみると、これは毎日取り組んでいるとのことであり、こうしないとあっという間にごみが増えていってしまうから…ということでした。素晴らしい取組だなと思いつつも、自分には正直なかなか今の生活の中では難しいな…とも思いました。でも、少し時間があるときに、同じことはできなくても、自分にも何かできることがあるのではないか、と考えました。

「SDGs」という大きな目標を考えてしまうと、なかなか一歩踏み出すことに抵抗がありますが、自分が無理なくできる範囲で何か貢献できれば…というスタートが大切だと私は考えます。環境という点を考えれば、「自分のゴミは自分できちんと処理する」「なるべく買い物袋を持ち歩くようにする」「必要以上に買い過ぎない」。そんな程度？と思う方もいるかもしれませんが、自分が継続的に取り組める、あるいは「S (すこし) D (だけ) G (がんばろう) s」と思える活動こそ、持続可能な開発目標への一歩なのかもしれません。自分に合った「SDGs」を見つけ、自分もがんばっている一人なのだと思う、そんな世の中になれば、きっと素敵な未来が待っていると思いませんか？